

30代の声「やりがい編」					
年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
38歳	男性	1人	建設コンサルタント	自分の専門技術で誰もが使うインフラ整備に従事している部分	家族に伝えていきます。伝えることで、自分のモチベーション維持になると思うから
35歳	女性	2人	地方公共団体	現場環境に合わせて検討を重ねた事項が実現した時	同僚、夫、子供たち
35歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	・工事が完成したとき ・推進してきた計画や協議が実現したとき	同僚、学生
37歳	男性	2人	建設業	苦労したものが終わったとき	特になし
39歳	男性	2人	建設業	工事が竣工し、少しでも人々の暮らしに役立ったと実感できたとき	同僚、一緒に苦労を分かち合えるから
39歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	自らのアイデアが設計となり、実際に施工され、お客さまに利用してもらえる部分。	伝えたいのは家族。自分がしている仕事を理解してもらいたい。共有したいのは同僚。達成感を共有することで喜びも2倍になる。
32歳	女性	0人	鉄道・高速道路・空港	大規模なものを創り、一般の方にご利用頂き、良い社会生活の一端を担える部分	家族や学生。自身の仕事に対する憧れや興味をもってもらいたい。
32歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	自分の担当する件名が形になって世のなかに出て行ったとき	家族（世の中の声を直接聞くことがなかなかできないため）
38歳	男性	2人	建設業	自分の設計や自分の開発した工法が適用された構造物が構築され、建築よりも多くの人々に利用してもらえること	家族に誇りたい。友人・同僚に同世代として刺激を与えたい。学生に夢を与えたい。
31歳	男性	1人	建設業	自分の考えが実際に現場に反映され、形となったときにやりがいを感じる。	家族。朝から晩まで毎日何をやってるのか知ってもらいたい。
33歳	女性	1人	鉄道・高速道路・空港	人々の暮らしを豊かにするプロジェクトをの一助となれていることにやりがいを感じる	家族、友人
34歳	女性	1人	建設業	インフラ建設や防災技術を通して、人の生活の基盤を築いている点	家族（仕事の理解を得たい）
38歳	男性	2人	建設業	自分がかかわったプロジェクトにおいて構造物が出来上がった際	特になし
33歳	男性	0人	建設業	無事完成した物件を見たとき	とくになし
33歳	男性	1人	建設業	手がけた建造物を人々が利用している姿を見た際、その人々の記憶・思い出の中に自分の成果物が残ること。自分の幼いころの思い出にある駅や建物と同じようにその人々の人格や生活の形成に一役買っていると思うとやりがいを感じる。	家族。わが子や家族もまたこれからの日本で暮らす人々の一員であるし、父親の仕事が世間の役にたつ仕事であることに少しでも誇りを感じてもらえればいいと思う。
33歳	男性	1人	建設業	私は『チームプレー』です。 非常に多くの人々が携わるのが土木であり、如何にして、チームプレーを成り立たせるかが重要であると考えています。 話は変わりますが、私は幼いころからバレーボールをしていました。バレーボールは、よく言うレシーブ→トス→アタックの3回で相手コートに返すのが通常です。高校時代の恩師の教えで、レシーブを失敗しても、トスでカバーできれば失敗はゼロに戻る。トスを失敗しても、アタックを決めれば、1点になる。というものです。 これが私の考えるチームプレーであり、この考えは土木でも、通ずるものがあると私は思います。 大勢の人が携わる中このようなチームプレーで工事を完成した時は、非常に達成感ややりがいを感じます。	若年職員に伝えたいです。 確かに今の時代、さまざまなものが進化し、非常に便利な世の中になってきたと思います。ただし、このチームプレーというものはいくら世の中が変わろうが、変わることのないことだと思うからです。
35歳	男性	2人	建設業	研究開発職です。開発した新技術をうまく現場展開できたときなどにやりがいを感じます。	次世代を担う学生と共有したいです。
34歳	男性	2人	建設業	災害復旧工事に関わることが多く、インフラの早期復旧を実現できた時は達成感を感じる。	家族
32歳	男性	0人	建設業	一品生産で巨大なものを、色々な人と関わりながら、方向性を共にして協働でモノ作りができること。工事中も竣工後にヒトが自分が作ったインフラを利用していることをイメージして辛いことを乗り越えたこと。	対象：学生 学生時代にもこういった内容は、リクレータやOBから伺っていたが、百聞は一見に如かずで実際に体験してみないと分からないと思う。海外のように最大1年程度の長期インターンシップ制度を設けて、施工管理や設計業務を体験してもらうなど工夫が必要と感じる。 対象：家族 家族見学会などの催しを積極的に開催して、仕事内容を知ってもらう。（大変さを理解してもらって、家族サービスができない点を納得してもらう・・・）
37歳	男性	1人	建設コンサルタント	誰かの役に立ったことを実感したとき	同僚です。理由は、切磋琢磨してきたから。
34歳	男性	1人	建設業	多くの人に使われる社会インフラの建設に携わること	家族、友人
36歳	男性	2人	建設業	壮大な構造物が完成した時の感動	家族
35歳	男性	2人	建設業	大きな建造物の間近で「ものづくり」に携わること	共有したい相手：家族、同僚 理由：日頃支えてくれる家族、苦難をともに乗り越えた同僚とやりがいを共有したい。

30代の声「やりがい編」					
年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わ的过程中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
36歳	男性	3人	建設業	工事竣工時は達成感、やりがいを感じる。日々の業務では感じない。	家族
33歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	形に残るものが出来上がる点	家族
34歳	男性	0人	学校	土木に関して特にやりがいは感じていないが、土木の分野は広くいため、やりたいことを自由にやれる部分もある。	学生
34歳	男性	3人	建設コンサルタント	発注者から感謝されたとき。自分を取り組んだ業務の内容が社会的に評価、注目されたとき。	家族、他人
37歳	男性	2人	建設業	自分の関わった案件が社会の役にたっていたり、人々に喜んでいただいていることを実際に見聞きできること（例えばインフラ整備など）。	ドボク＝税金の無駄遣い、というネガティブな印象を変えるため、両親や家族には、自分の仕事が色々な形で役に立っていることを積極的に話すようにしている。また、次代を担う世代としてお会いする学生の皆さんには、土木は（つらいこともたくさんあるけど）楽しい、ということをお話しています。
34歳	男性	2人	建設業	構造物の完成とともに、仕事が完結していくところ。	同僚
37歳	女性	2人	地方公共団体	物が形になるとき	子供。
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	実社会、実空間に大きな影響を与えている点	学生。そのやりがいを伝えたい一方で、既存の慣習にとらわれない効率的な考え方、働き方も目指してもらいたい。
34歳	女性	1人	建設業	自分の目標を達成したとか、考えたことが好評されたとか、スケジュールを遅れずに仕事ができるとき	いない
35歳	男性	2人	建設業	物件が竣工したとき	家族・同僚
33歳	女性	2人	建設業	ものづくりに携われるということ	家族 (夫は同業のため話がはずみます。子どもにもいつか両親は魅力的な仕事をしていると思ってほしいです)
34歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自分の携わった仕事が現場に出来上がること	子供
32歳	男性	0人	建設コンサルタント	発注先から感謝された時や納品時には達成感を感じるが、ドボクに限った内容ではないと思っている（ドボクに限ってではあまり感じない）。	同僚。一緒に仕事をしたメンバーであれば共感を得られるため。
36歳	男性	2人	建設業	現場を動かすこと。モノができていく実感。	家族
36歳	男性	2人	建設業	社会への貢献。国家プロジェクト等への従事	学生
31歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自身が苦勞して進めてきたプロジェクトが具現化され、形になったとき。	家族。家族にも自身がどんな仕事をしているのか理解してもらいたい。
36歳	男性	0人	建設業	コンクリート構造物好きの私としては、がっちり組まれた型枠支保工を解体して、躯体の素肌があらわになった瞬間にやりがいを感じます。出来あがった姿を眺めると、それまでの苦勞が全て吹っ飛ばぶくらい嬉しくて、涙が出たこともあります。現場一品もの生産で、安全・品質・出来形・工程・費用・様々なことに配慮して施工するには苦勞が絶えません。しかし、それがあるからこそ大きなやりがいを感じられます。	家族、同僚、協力会社
32歳	女性	1人	鉄道・高速道路・空港	計画が実際にできあがり、実現され、お客さまにご利用頂けたとき。	
34歳	女性	0人	建設業	大規模プロジェクトに係われる点、構造物が世の中に残る点。	今後子供を持った場合に伝えたいと思います。
39歳	男性	2人	建設業	お客さんと共に難しい課題を一緒に解決していくとき。工事が終わった時。	同僚
34歳	男性	0人	建設業	建設物が完成した時。計画をたてて計画通り物事が達成できた時。	同僚。同じ苦勞を経験していることで達成感を共有できることが多い。
31歳	女性	0人	建設業	現場からの問い合わせに回答できたとき、理論や基準を全部理解して設計ができたとき	同僚、学生。同僚は同じ仕事をやっている者として楽しさを共有したい。学生は、仕事内容をちゃんと理解して、「それをやりたい」と思った方に入社してほしい（そういう子が強く生き残れるため）。
38歳	男性	1人	建設業	設計や工事が竣工した際に子供に案内できること	家族
32歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	規模の大きな仕事に携われること。	家族
31歳	女性	1人	鉄道・高速道路・空港	高速道路を利用者側の視点になったときに、当たり前前の生活ができ、自分の日々の業務が、この生活につながっていると感じるとき	土木を学ぶ学生
35歳	男性	2人	建設業	知的好奇心を満たしたとき、現象を理解したときなど。	同僚、大学の先生、学生
35歳	女性	0人	建設業	誰かにほめられたとき	先輩：がんばったらいいいことがある、と伝えたいから
35歳	男性	3人	建設コンサルタント	発注者から高い評価を得たときや、検討成果が基準類に反映されたとき	同僚、上司

30代の声「やりがい編」					
年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？ 上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)	
31歳	女性	0人	建設コンサルタント	専門的、技術的な仕事であり、知識や経験が増えれば、それだけ自分が成長したことを感じられる。	
30歳	女性	0人	鉄道・高速道路・空港	携わる工事の構造物が完成した時、難題に対して答えが見つかった時。	日々気にかけてくれる家族、ともに苦労した同僚。
38歳	男性	3人	建設業	形に残り、思い出にも残る	友人 同業者
30歳	男性	0人	建設コンサルタント	ソフト系にいたるが、市民生活の困った点をマクロに解決できること。ただ、行政-コンサルの甲乙関係の中で、行政の思い付きを人力で流し込むだけの仕事の仕方が多く、なかなか理想通りにいかない。	
35歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	設計が図面となり、図面が構造物となった時	後輩
33歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	仕事としては達成感があるときもあるが、土木という枠組み内では特になし。	
39歳	男性	0人	建設コンサルタント	発注者及び受注者の両方を経験しているが、やりがいを感じることは特になし。他の分野に比べて、役所の力が強すぎるし、保守的すぎる。	特になし。
34歳	男性	2人	建設業	・竣工検査で発注者から「合格です！」と言われたとき ・「ありがとう」「それで行こう」などの前向きな一言をもらった時	同僚、協力会社 理由：この業界は他の人から理解されづらいと感じているので
31歳	男性	0人	建設業	ない	
30歳	男性	0人	学校	仕事が形に残ること	
32歳	男性	0人	学校	公共の福祉について考えられる	学生に勉強して将来を担ってもらいたい
35歳	男性	1人	建設コンサルタント	暮らしの安全を守っていること	すべての人々 土木業界の地位向上のため
38歳	男性	3人	学校	研究と実務が有意義に結びついているとき、	家族、友人、同僚、学生すべて、
35歳	女性	2人	建設コンサルタント	過去に関わった業務が数年経って形になったとき、それが公益に大きく貢献できるとき	自分の子供（社会の役に立つ仕事の一つとして知って欲しい）
30歳	女性	0人	建設業	仕事を達成したとき（受注や竣工等）。 何もない状態から多くの人の力によって1つのものが完成したとき。	家族等の親しい人や子ども達 家族へは、純粋に自分の携わった仕事を伝えたいと言うから。 子ども達へは、ドボクの良さを知ってもらい、将来の職業選択の候補のひとつとして知ってもらいたい、または少しでも良いイメージを持ってほしいから。
32歳	男性	0人	学校	多様な領域に関わることなので、多様な人たちと関われる点。	学生。分野を育てる必要があるから。
32歳	男性	2人	学校	土木は、「科学と社会が出会う場所」であり、その面白さはかけがえのないものだと感じる。	
30歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	担当している工事で目的物が完成したとき	家族、他部署の同僚
30歳	女性	0人	建設業	関わった工事が実際にまちの人に使われるようになること。	自己満足なので特に共有したい相手はいない。
30歳	男性	0人	建設業	完成された構造物を見た時、又は設計図、計画工程通りに施工が進んでいるとき。	同僚
36歳	女性	1人	建設業	モノが完成した達成感、それまでの苦労を含めた過程	①学生や若手職員：なんとなく建設業の学校（会社）に行ってしまった学生や若手職員に。②子供たち：将来の選択肢の一つとして知ってもらいたい。
33歳	男性	0人	建設業	自分で設計したものが完成した時	家族や近親者
37歳	男性	1人	建設コンサルタント	業務等で検討したことが社会実装されること（実際にモノができて生活に影響を与えたり、法制度の中に検討の成果の一部が反映されたりすること）。	家族に対して。自分が人生において何にやりがいを感じているか、価値観を理解してもらえると嬉しい。
37歳	女性	0人	建設業	人々の役に立っていると実感できた時	自分がなぜ仕事に打ち込むか等を知ってもらうためにも、ドボクの仕事のやりがいを「家族」と共有したい。
30歳	男性	0人	建設業	現場でひとつの工種が完了した時、現場がしゅん工した時にやりがいを感じる。	同僚 (しゅん工、完成という同じ目標に向かって、一緒に奮闘した仲だから)
37歳	男性	0人	建設業	工事が完成した時、現場以外の人から便利になったとか、安全になったとか感謝されたとき	工事地区の地元の人たちと
31歳	男性	0人	建設業	建設工事は、大きいお金を自由に使ってやりたいようにモノづくりができるという点に魅力ややりがいがあると思います（もちろんある程度の縛りはありますが）。 また規模が大きいため、日々の積み重ねは大変ですがやり遂げたときの達成感はずばらしいものがあります。 ゼネコンは施工が中心ですが、技術提案、設計、開発、営業など様々な立場からドボクに携わることができる点もやりがいの一つだと思います。	家族、学生
33歳	男性	0人	建設業	災害発生のニュース等を見て、普段当たり前に思われている土木の有り難さを改めて感じた時	家族

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
33歳	男性	0人	建設業	現場で発生した問題を作業所という組織の中で解決できたとき	作業所内の職員および協力会社関係者、民間工事なら発注者担当者
38歳	男性	2人	学校	自分がやった仕事でだれかの、あるいは世の中の役に立ったと感じたとき、または役に立つ目途がたったとき。	やりがいを共感する場合は同僚（学生含む）と：成果を得るために一緒に努力した者同士として共有したい・共有できると思うから。 やりがいを伝える場合は後輩・学生へ：自分が果たしたこと、感じたことを次の世代に伝え、継承したいと思うから。
33歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	当たり前のインフラを安心安全快適にお客様にご利用いただけること。	家族。なんとなく仕事をしているわけではなく、ポジティブにやっていることを共有したい。
34歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	社会的に影響のある仕事ができる。将来残る仕事ができる。	土木以外の系統の同僚。
34歳	男性	1人	建設業	自分が設計したものが形に現れること。	同僚
31歳	男性	2人	建設業	トンネル工事（道路）に携わっていたが、貫通した時やそのトンネルが開通した時達成感があった。	家族、友人
37歳	女性	0人	建設業	仕事の目的や成果がシンプルで明確な点。	家族
39歳	男性	1人	建設コンサルタント	受注獲得	同僚および担当技術部門
33歳	男性	0人	IT	交通や都市計画、観光の調査分野ですが、実施した内容が数多くの方に関係する点。しかし、調査した結果を踏まえた施策が本当に履行されるかどうかは不明であり、調査しておしまになっているケースが多い点は課題かつ悲しいところ。	学生。魅力ある分野だということを知ってほしい。しかしその前に業界全体を変えていくことが必要。
33歳	女性	0人	学校	日々体験していることが議論の対象になる部分。	学生など
33歳	男性	1人	建設コンサルタント	社会貢献できていること。	家族、友人、親戚、後輩社員
36歳	男性	2人	建設コンサルタント	業務内容において新たな対象を取り扱ったり、新しいデータを得て、論文を執筆できた時。	特に共有したいとは思いません。
32歳	男性	2人	建設業	物が完成して検査が完了したときに形に残る成果として嬉しい。	母校の学生にもっと建設業界に興味を持ってほしい。
38歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	整備新幹線の仕事をしているが、開業した時は達成感ややりがいを感じる。	家族。最も身近にいる存在だから。
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	自身が携わったプロジェクトが形になった時。	家族（現業等はどうしても突発的な対応がつきものであり、自身の仕事について理解してほしいため。）
35歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	国家プロジェクトに関与でき、開業等の節目にやりがいを感じる。	自分の心の中にそっと置いておきたい
39歳	男性	2人	建設コンサルタント	携わった工事が完工したとき	家族。一緒に気持ちを共有したい。
38歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	日々の平穏な社会の暮らしが守られているとき	学生
35歳	男性	0人	地方公共団体	規模の大小を問わず、自分の作ったものが形となること。大きく頭を悩ませた箇所がうまく施工できた際、喜びを感じる。	同僚
36歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	トンネルの貫通や路線の開業など、大きな節目を迎えた時。	家族、友人
35歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	人・世間の役に立っていると感じたとき	家族 理由：父として世間に役立つ仕事をしていると感じて欲しい
35歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	社会貢献、ものづくり	家族、自分の仕事を知ってもらいたい
38歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	工程調整、自治体等との協議により、困難を乗り越えていく部分	学生
33歳	女性	0人	学校	・自治体職員の方に喜んでもらったとき ・自治体職員と研究・調査テーマについて議論するとき ・同僚と研究アイデアを議論するとき	家族（両親）：学費を投資してもらったことに意味があることを伝えたいから 学生（大学）：仕事でもプライベートでも地域の役に立つ人物になってほしいから 学生（中学生）：ドボクに関して興味を持ち、進路の一つとして考えてほしいから
35歳	男性	2人	建設コンサルタント	未来のまちを想像するとき	
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	国の形を変えるような、スケールの大きな仕事に取り組めること	学生など：土木という仕事のやりがいを知ってもらい、一緒に仕事をしていく仲間を増やしたい
36歳	男性	0人	製造業	限られた資源と労力で成果を上げることができたとき。	後輩
36歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	構造物が出来上がった時	同僚・施工会社
35歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	自分が係わった構造物が完成した時	

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
30歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	構造物が完成し、供用開始したとき	学生。就職の参考に。
33歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	目的を達成し、利用者が喜んでいる状況を見たときや、社会に大きな変化を与え、それがメディア等で取り上げられたとき	自分がやったことは、大きくの人に自慢したいという思いはあるが、企業の名が世間に知れており、対外的にもなかなか情報を公開できない。そのため、家族や同僚ぐらしか伝えられないのが実情である。
32歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	供用開始といった工事の完成を迎えたとき。	同僚や学生。技術力や影響力を伝えることができるため。
39歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	世の中の役に立つ	同じプロジェクトに関わる会社関係者 理由：お互いの成果を共有したい。本当は世の中の人に共有したいが、世の中の人に共有するほど沢山のことを個人でできているわけではないため。
31歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	工事が完了することで、構造物をお客様に利用していただき、その効果、影響を目で見て分かる点。また、その効果、影響が大きい点	家族、友人、同僚
37歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	多くのお客さまや地域社会に貢献できるプロジェクトが使用開始になったとき。 担当しているプロジェクトがテレビ等で報道されたとき。	家族、若手社員
34歳	女性	0人	鉄道・高速道路・空港	使用開始や、工事着手といったプロジェクトの節目に立ち会えたとき。	同僚、家族 … 長年携わっているケースもあるが、たまたま節目に立ち会えただけのケースも多いので、個人的にあまり広範に学生や友人等に共有するのははばかれる。
36歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	開業等を経て地域が変わっていくこと	後進の技術者
31歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	一緒になってモノづくりをできているとき	同僚・・・やりがいのある仕事であることを感じて欲しい
31歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	大規模な工事や長期間の工事が完了しお客さまに利用される時	家族
36歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	施設が完成したとき。また完成した施設が供用・使用されているとき。	家族（子供）：将来人の役に立つ仕事に就いてほしいため
32歳	男性	1人	地方公共団体	工事が完了したとき	同僚
35歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	構造物が完成した時	同僚 一緒に汗をかいた仲間だから
37歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	できあがるものの大きさ	とくにいない
32歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	担当プロジェクトが開業したとき	家族、友人 いいものができた時は知ってもらいたいし、使ってもらいたい
36歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	長いプロジェクトの節目を迎えた時	
31歳	男性	0人	建設業	構造物が工期内に無事に完成した時	同僚
36歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自らが携わったプロジェクトが完了し、多くの方が施設を利用していただくなど、社会の発展および暮らしの質の向上に寄与できたとき	家族 自分がうれしく感じたことを、家族と共有したいから
31歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	鉄道施設の改良は、地域への貢献やお客さまの利便性の向上に寄与でき、やりがいを感じる。	上司、同僚、部下、家族
31歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	規模の大きな仕事	家族
37歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自分が担当したインフラ整備が進み、それをご利用されるお客さまの顔を見た時	両親
33歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	施工に携わったプロジェクトが完成を迎え、地域の方等から喜びの声を聞いたとき	
33歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	公共事業や影響力の高い事業に携わり世の皆さまの役に立てる部分	特にいない（線の下の方力持的存在でありたく、無理に共有してはその美学に反するから）
32歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	自分の仕事が形として残る。また、社会的な影響力が大きいことが多い。	やりたいことがない学生さんなど
37歳	男性	1人	建設業	担当工事物件が無事竣工し利用されている	利用者
34歳	女性	1人	建設業	発注者に技術的な提案をして品質向上に貢献できたとき	部下、後輩：主体的に考え、提案する楽しさを知ってほしい
31歳	女性	0人	建設業	解析が回った時。	特にいない。
34歳	男性	2人	建設業	行政レベルで考えられた施策・施設を具体化して建設し、それが一般の方々の役に立つという部分にやりがいを感じます。	家族：自分の仕事が地図に残ることで、自分のやっていることを理解してもらえるから。
34歳	男性	2人	建設業	1つのマイルストーンに達した時。社内外の人に感謝された時。	同じPJに携わり、苦楽を共にした同僚。苦楽の経緯を共有しているから。
30歳	男性	2人	建設業	モノができたとき	家族、同僚

30代の声「やりがい編」					
年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。（例：家族、友人、同僚、学生など）
33歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	多くの人が利用する施設を造り、使用開始されたとき	家族
35歳	男性	2人	建設業	モノができたとき、目に見えること	家族 自分が活きた証を子供たちに伝えたい
31歳	男性	0人	建設業	図面が実物になる瞬間	後輩 理由：仕事に慣れるまでは大変だと思うが、得られるものも大きい、いつか楽になるときが来ると分かって欲しいから。
31歳	男性	1人	建設業	個人戦でなくチーム戦など。ダイナミックなところ。	子ども
33歳	男性	1人	建設業	完成した構造物が多くの人々の生活の向上に資する部分	親 親に支援してもらっていた学生時代に学んだことが十分に活かされているため
38歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	チームワークで後世に残る構造物を構築し、インフラサービスで社会貢献を果たしたとき	家族。やりがいが社会に向いている（=社会の役に立っている）姿を家族に見てもらいたいから。
37歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	自分の苦勞して考えた構造物が形になったとき、地元の人から喜んでもらった時	同僚、施工会社
32歳	男性	0人	建設業	施工物件の竣工、供用時に達成感を感じる	家族。生活の一部を支えてもらっているから。
30歳	男性	1人	建設業	なし	
39歳	男性	2人	建設業	自信が設計・施工管理に携わった構造物が地図に残ること。	家族
31歳	女性	1人	建設コンサルタント	①自分設計したものが実物になったこと ②今まで勉強した知識が業務中に活用できること 大学院修了までの努力が無駄ではないこと 自分努力の価値が認められること ③町中土木構造物を見ると子供に説明出来ること ④人の命を守れる、安心・安全の生活が出来るような仕事をしていること ⑤子供にいい見本（女性でもしっかり仕事できる）が出来ること、子供に多様な生き方を見せること	家族、友人
37歳	男性	0人	建設業	自分で設計した、または施工した構造物が出来上がった時	家族。家族と共有したいから。
32歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	専門的技術のみでなく、さまざまな技術が必要なこと。次世代に残ること。	特になし
37歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	駅の新設を担当した際、完成後多くのお客様に、「普通に」ご利用いただいている様子を見たときにやりがいを感じた	子供 中学生になり、将来のことを考えはじめたため、例えば私自身の仕事ならこういうやりがいがある、など事例を交えて会話している
36歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	実構造物に反映されたとき	特になし
31歳	女性	0人	建設業	社会基盤を作っている実感を持つこと。	同僚、部下
35歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自分の開発したものが使われたとき 論文が採択されたとき	家族 同僚
35歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	自分の携わったものが形になったり、それを誰かが喜んだりする点	特に共有したいとは思わない
37歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	苦勞したプロジェクトが完了したとき。地図に残る。地域の方の感謝の声	（苦勞をともにしたので）上司部下同僚、（父親の威厳？のため）家族
36歳	回答しない	2人	建設コンサルタント	やりがいとは少し違うが、定型業務が少なく、案件毎に新しい経験が出来る点は魅力と感じている。	特になし。
37歳	男性	2人	建設コンサルタント	エンドユーザーの喜びの声を聴けること	同僚
38歳	男性	0人	建設コンサルタント	設計した構造物が出来あがって、使用されている点	身の回りの人全般でしょうか。
39歳	男性	0人	建設コンサルタント	発注者の要望に答えられた時	いない
31歳	男性	2人	建設コンサルタント	一つの業務を滞りなく終わることができたとき	家族。仕事のことだけでなくほかのことも共有するようにしています
35歳	男性	2人	建設コンサルタント	苦勞・工夫して作成した資料で円滑に協議が進んだとき。自己学習によるスキルアップが仕事に活かされたとき。	同僚
35歳	男性	3人	建設コンサルタント	モノができることで地域や国家の競争力が上がること	国・地域の根幹を担う重要な仕事であることを家族、友人と共有したい
38歳	女性	2人	建設コンサルタント	目に見えるモノができ、マチが変わっていく一端を担えること。	子供へ。 計画系ですが、自分が過去に携わったものがのちに完成したとき「これは、ママが昔、一生懸命考えたんだ」と教えてあげられます。
36歳	男性	1人	建設コンサルタント	・自分の調査・設計成果が、実際に構造物として完成したとき。 ・学生時代の専門知識を生かして技術的な検討をして社内外に認められたとき。	家族。会社で自分がやっていることを認めてもらいたい。

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
34歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	計画が形になったとき	特にない
37歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	社会基盤の整備を通じて、皆の日常生活から様々な経済活動までを陰ながら支えているだと思いつながりながら仕事をすると、やりがいがある。	子供（父が頑張っている姿を理解してくれたらうれしい）、学生（世の中の仕組みの中で土木技術者の重要性により気付いてほしい）
34歳	男性	0人	建設コンサルタント	関わった事業が完成したとき	学生
38歳	男性	0人	建設コンサルタント	交通計画部門であるが、自分の立案した企画が通ったとき。プロボが特定されたとき。	恋人
35歳	男性	1人	建設コンサルタント	自分が計画・設計したものが実際に出来上がり、人の生活を豊かにするところ	学生
36歳	男性	2人	建設コンサルタント	多くの人が気づいていない中で色々な欠かせないインフラの構築に貢献していること	ご家族、お友達
34歳	男性	2人	建設コンサルタント		家族
33歳	男性	1人	建設コンサルタント	自身の検討成果に基づいて社会変革が起こること	後輩全般
38歳	男性	0人	建設コンサルタント	都市課題解決に資することができる	家族、同僚
36歳	男性	1人	設計事務所	社会に対して、何かを提案していること。ものづくりをしていること。	特にいません。
33歳	女性	0人	建設コンサルタント	国の発展に貢献していると感じたとき	
33歳	男性	2人	建設コンサルタント	世界の誰も手掛けていない事業や課題に取り組むとき	誰でも伝えたい 理由：仕事を楽しんでいることは誰にも伝えたいポジティブなメッセージだから
34歳	男性	0人	建設コンサルタント	対象物が出来上がる時	妻
39歳	男性	1人	建設コンサルタント	提案書で受注できたとき、自分の裁量で仕事が進められるとき、無事納品できたとき等	やりがいは個人で感じていけばよいと思うが、強いて言えば家族や友人（私が幸せしていることが家族・友人の幸せにつながるため）。同僚は、程度にもよるが、基本はビジネスなので、やりがいを積極的に伝える対象ではない、という考えです。
35歳	男性	0人	建設コンサルタント	・自分の携わった業務が形になったとき ・複数の関係者との連携・調整しながらプロジェクトを進ませてやりやりに達したとき	同僚：会社の上司・後輩含め様々な方にお世話になっているから。
33歳	男性	2人	建設コンサルタント	自分が設計したものがかたちになったとき	家族
34歳	女性	1人	建設コンサルタント	地質調査・設計を主体の業務を行っているため、地元と発注者との架け橋になることが多いので、両者をうまく繋ぐことができたときにやりがいを感じる。	同僚・新入社員および学生と共有したい。 この業界に少しでも興味を持ってもらいたい。
35歳	男性	1人	建設業	担当した工事が上手く竣工した時	家族
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	どのような形であれ、関わった仕事で実際に「モノ」が出来る部分	将来の担い手を確保する観点からも学生に伝えたい
33歳	男性	0人	建設コンサルタント	技術的課題に対し最も合理的と考えられる提案ができたとき	同僚 類似の課題の解決策の一つとしてのアイデアを共有するため
31歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	特になし。	
35歳	女性	0人	建設コンサルタント	課題を解決する方法をみつけたとき、客先との関係を良好に築けたとき	後輩社員：前向きな考え方を伝えたい
32歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	構造物が次の世代に残る。	子ども
30歳	女性	0人	鉄道・高速道路・空港	関わっているプロジェクトで構造物が完成したとき。	家族。身近な人に便利になったと感じてもらえたら嬉しいので。
31歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	世の中が良くなってきていると感じたとき。	
32歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	出来た施設をお客さまが使っているのを見た時。便利になったと言われたとき。	同僚や土木系の学生。
30歳	女性	0人	学校	大学教育に携わっていますが、はじめは与えられたものをこなすことも難しかった学生が自分で課題を見つけて自分で解決できるようになったのを見た時、やりがいを感じます。同時に、自分も頑張らねばと思います。	学生本人

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
30歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	モノが完成したとき。 携わったモノが利用され、評価されたとき。	友人 あまり業界に詳しくない人には、そのやりがいや価値を深くは理解してもらえないこともあるため、同業種の友人等に伝えた方がより共感してもらえるため。
38歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	人々の生活を支えるインフラ整備に携わるといってやりがいを感じます。	学生。土木の魅力を共感してもらい、就職先として選択肢に入れていただきたいと思います。
30歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	工事竣工時や供用開始時。大型工事の社内決裁時。	友人や家族など
34歳	男性	0人	建設コンサルタント	自分の仕事が発注者や住民に喜ばれたとき	共感してくれる人であればだれでも。
35歳	男性	1人	建設コンサルタント	公共・公益のための仕事をしているという自負。	特になし
37歳	男性	1人	建設コンサルタント	構造物が実際にできたとき。道路が開通したとき。	会社の仲間。一緒に仕事を行うチームメイトだから。
32歳	男性	2人	建設業	仕事の成果が社会への貢献につながるころ。	家族
31歳	男性	0人	建設業	弊社はPC専業であり、主にPC橋梁の施工を手掛けていることから、今まで行き来が困難・時間を要していたところへ、橋梁を架設することで、往來の利便性が、飛躍的に向上した時に、橋を架けたという達成感を感じる。 特に施工開始当初は、仮設足場もなく、橋台・橋脚間の行き来が非常に大変であるが、足場を架設し、本体構造を架設していく中で、徐々に橋梁のもつ利便性、意味合いを感じながら、仕事ができる点は、非常にやりがいがあると思う。	基本的に上記のやりがいは、自分自身が感じていることであり、自己満足程度でいいかと思う。そのため、周囲の人と共有したいとは特段思わない。 ただ、「やりがいのある仕事をしている」という点を、共有したいという意味では、家族や友人に知っていて、もらいたいと思う。
39歳	男性	2人	地方公共団体	無事に1つの現場が完了したとき。(以前はゼネコンに務めており、直接現場に携わってきたが、地方公務員となった今でも、自分の設計した工事が無事に完了したときは達成感を感じる。)	家族。特に子供。
31歳	男性	0人	建設コンサルタント	地元の人からの感謝の言葉を頂くとき	同僚、恋人
31歳	男性	0人	建設コンサルタント	なし	なし
33歳	男性	1人	建設コンサルタント	自分が設計に携わった土木施設を利用される方々を見た時。発注者、施工会社、社内の関係者を始め、様々な方々と協力して事業が成り立っていると業務を通じて感じる点。	家族(率直に聞いてほしい)、同僚(共にやりがいを高めていきたい)、学生(次世代を担う方々に、少なくとも土木について知ってほしい)
37歳	男性	3人	建設コンサルタント	設計した物が形になったとき 設計が満足いくとして成果を作成出来たとき	家族 毎日どんな仕事をしているかを伝えられる 同業種の友人 内容について共有できる 異業種の友人 相手のやりがい等との意見交換により、自分と比較できる
34歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	自分の計画したことが目に見えるカタチとなり、それが多くの人の役に立つところ。	家族。社会の役に立っていることを伝えたい。
31歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	プロジェクトマネージャーとして、多様な関係者を巻き込みながら、計画策定、施工管理、品質管理、進捗管理を行い、竣工した瞬間。	将来を担う学生に対して、紙面上では伝えにくいことを口頭で伝えることで、具体的なイメージを掴んでいただき、有望な人材が増えてほしいため。
37歳	男性	3人	地方公共団体	利用者が喜ばれる計画、物が完成したとき	特になし
37歳	男性	2人	地方公共団体	自分が携わったことが形として残り、多くの人の生活を支えているということ。	家族、友人、同僚
37歳	男性	2人	地方公共団体	地元住民からの感謝の声を聞いたとき	
31歳	男性	0人	建設コンサルタント	発注者が求めている内容に対して自分なりの回答を見つけた時。	同僚
30歳	男性	0人	建設コンサルタント	自分で業務をコントロールでき、やりたいうようにできたとき	なし
35歳	女性	0人	地方公共団体	自分が携わった計画が道路としてカタチになったとき	家族。自分がどんな仕事をしているのか知ってほしいから。
31歳	男性	0人	地方公共団体	なし	なし
33歳	男性	1人	鉄道・高速道路・空港	工事が竣工・供用開始をむかえたとき	配偶者
35歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	工事に携わった施設が開業を迎える時	家族
34歳	男性	1人	地方公共団体	地図に残る仕事に携われること。	家族(特に息子)
34歳	男性	1人	地方公共団体	完成した時	同僚
37歳	男性	2人	建設コンサルタント	設計したインフラが整備され実体化したとき、考えた効果が得られたとき	家族、学生

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
36歳	男性	2人	建設コンサルタント	実際にものが出来上がったとき、それを利用している人を見たときに社会の役に立っていることを実感しやりがいを感じる	学生生活の中では上記のやりがいを感じる機会は少なく、土木に興味を持つきっかけにもなると思うので学生に伝えたい
34歳	男性	1人	地方公共団体	地図に残る仕事に携われること。	家族（特に息子）
36歳	男性	2人	地方公共団体	地域貢献	家族
33歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	供用するとき	同僚
32歳	男性	0人	地方公共団体	やりがいを感ぜられるほどの余裕がない。	
33歳	女性	0人	官庁・独立行政法人	形になったとき。	
34歳	男性	1人	地方公共団体	地図に残る仕事に携われること。	家族（特に息子）
34歳	男性	2人	地方公共団体	子供に仕事を自慢できる	家族
32歳	女性	0人	建設コンサルタント	目に見える成果として残ること、自分の専門以外にも多岐にわたる分野に触れられること	学生、家族
39歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	短期的な成果は見えにくいですが、その分、成果があがった時には大きな達成感を得られる。	学生
39歳	男性	1人	建設コンサルタント	仕事の規模が大きいく、世の中に認知されやすい	できるだけ多くの人と共有したい。土木という額が大きすぎて時に税金の無駄遣いのように聞こえるコトがあるのが、仕事している側としても残念でならない。業界のことをより多くの人に認知してもらい、正しいことを一生懸命やっている人間がいることを知ってほしいし応援してほしい。
31歳	女性	1人	地方公共団体	特になし	特になし
33歳	男性	2人	地方公共団体	ものづくりの仕事であり、ものとして残り形に見えることで達成感を感じる。	
32歳	男性	0人	地方公共団体	携わった現場が形になって残る。 地域の人から感謝される。 決まりきった作業ではなく、工夫の余地があり、課題解決の達成感を得られる。	家族…自分の仕事を理解してもらいたい 後輩…課題に直面している時は苦しむこともあるが、自分で考え、解決することの楽しさを理解してもらいたい
34歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	自分が行ったことが、ニュースで大きくとりあげられたとき。	家族、同僚
33歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	事業等をマネジメントできること	同僚、後輩
35歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	直轄事業の予算を確保し、それを基に発注作業を行い、その施設が完成したとき	家族
37歳	女性	1人	官庁・独立行政法人	自分が計画を担当した案件が、数年の時を経て完成し、人々の役に立っているとき。	学生等の若い人。もっと土木の魅力を知ってほしいため。
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	作るものの規模の大きさ。国民の社会生活への貢献度の高さ。	同僚
35歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	地域に喜んでもらったとき。	特になし。
32歳	男性	0人	大学院生	巨大構造物を作っているという実感	同僚、学生
38歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	各関係者の長期にわたる集合知、思いが結集して、事業に取り組んでいること。 港湾事業であれば岸壁が供用し、新たな貨物・企業が利用するなどの目に見える成果が出てきたとき。	家族、同僚
33歳	男性	0人	地方公共団体	地図（後世）に残る仕事であること	後輩、あるいは学生
36歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	担当工事が完成した時。橋梁の建設工事に携わり、開通を迎えた時いまままでにない達成感というか感動というか感慨深いものがありました。	家族、同僚、後輩等
32歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	様々な関係者と長い時間をかけて調整してきたことが成果物として世間に公表されたとき。	家族、友人、学生
38歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	自身の関わる業務が何らかの形になって世の中の役に少しでも立っていると感じたとき	学生 (理由) ドボクという仕事に携わる人が少しでも増えると良いと考えるから
39歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	関係各と調整しながら、物事を進めていくところ。色々な意見があるので、難しいですが、調整が整った時などに達成感を感じます。	家族
39歳	男性	4人	官庁・独立行政法人	モノが出来上がったときや利用者からプラスの意見をもらった時	家族
31歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	自分が携わった業務により御礼を言われたときに達成感を感じる。	妻、家族。
31歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	事業が完了し、実際にインフラが稼働している状況を見たとき	特になし

30代の声「やりがい編」					
年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
37歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	大きなプロジェクトを実施できること、またプロジェクトの実施効果が広くいきわたる点	身近にいる人とやりがいを共有したいので、家族。
31歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	地元の住民に感謝される時	
35歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	土木技術者は「社会の外科医」であること	学生、同僚、大学、国民一般
33歳	男性	0人	建設業	全員一丸となって、完成形を目指して取り組む様子	学生、土木に対してマイナスのイメージを持っていると思うから
30歳	男性	0人	官庁・独立行政法人	現在携わっている港湾計画という業務においては、将来的に企業や市民にどのように施設を活用してもらい、地域、ひいては我が国の経済・産業・賑わい・防災等にどのように繋がっていくのかを想像しながら、将来のマスタープランを描くことにやりがいを感じます。	良き家庭を築くため、家族には仕事のやりがいは共有したいと思います。 また、自分が新入職員の頃にコピー等の事務作業に追われやりがいを見失っていた時期があったので、同僚（特に部下）とは仕事のやりがいも共有しながら業務に臨みたいと考えています。
38歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	開通前夜まで工事の完成ににじり寄るところ	子供
36歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	・どの分野でもある程度は同じかもしれないが、「社会や人々のため」という目的意識を持ちやすい。土木分野に従事する人々には、学問の世界も含めて、社会や人々への貢献を強く意識する風潮が根強くあると感じている。	・同僚：普段の業務上のやり取りでは、「これは世のためになるのか」と自問することを極力行うようにしており、そういった中で目的意識を共有できると自分の中で同僚への信頼感が高まるのを感じる。 ・学生：土木というとイメージが全くないか、何となく泥臭いイメージを持つ若者が多いと思われるので、土木業界の多くの人々が志を持って仕事に取り組んでいることは共有したい。
35歳	男性	2人	官庁・独立行政法人	ない。インフラを作るばかりに主眼が置かれている。無駄な事業が多いと思う。	伝えたい相手はいない。とても人に誇れるような仕事はしていない。
32歳	男性	1人	建設業	特に土木は生活に直結するインフラを作るという仕事が多いので、社会に貢献しているということや地図に残る構造物に携わっていること。あとは土木には限らないですが、誰かに喜んでもらえること。	やりがいを伝えたいのは今後のドボク・日本の将来を担う学生の方や子供たち
36歳	女性	0人	地方公共団体	竣工を迎えたときや入札が終わったとき。	同僚、友人：同じ分野でない仕事上のやりがいを共有するのが難しいと感じるので
32歳	男性	0人	地方公共団体	安定している。なくならない	特になし
38歳	男性	0人	地方公共団体	特になし	特になし
39歳	男性	1人	地方公共団体	スケールの大きな仕事	家族
37歳	男性	2人	地方公共団体	工事完了後、目で見て達成感を感じることが出来る。	
30歳	男性	0人	地方公共団体	設計業務の発注・契約時と施工業務の工事完成時の部分でやりがいを感じる。	やりがいを共有したい相手は、仕事内容が理解できる同僚です。
31歳	男性	1人	地方公共団体	設計、工事ともに成果が上がった時、物事が決定して前進した時や、工事が完了した時	家族 どんな業務をしているか、共有したいため。
38歳	女性	2人	地方公共団体	住民に感謝されたとき	家族
33歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	工事が進捗（完成）したとき、自分の案が採用されたとき	家族・友人
39歳	男性	2人	地方公共団体	住民に役立つ仕事ができるという点	同僚
35歳	男性	1人	学校	多くの人に考えていることが伝わり、目指すものが共有される時	家族
33歳	男性	1人	地方公共団体	完成した時や要求水準をクリアできたとき	家族、職務内容を理解してほしい
30歳	男性	0人	建設コンサルタント	発注者は地域住民に感謝されること。	家族、友人、同僚等
31歳	男性	1人	地方公共団体	工事が竣工したとき。	学生
39歳	男性	2人	鉄道・高速道路・空港	担当物件が竣工後に、大勢のお客様にその施設を（普通に）使ってもらっている様子を見たときに、自分の仕事のやりがいと次の仕事のモチベーションにつながっている。	会社の後輩。イメージしてもらうことで、仕事に対するモチベーションアップに少しでもつなげらうとともに、会社のボトムアップをさせるため。
33歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	自分の携わったことが形に残ること	家族
38歳	男性	1人	地方公共団体	自身が関わった大規模施設の更新、改築などが完了した時	同僚：その仕事の詳細を理解して、共感してもらえるから。
36歳	男性	2人	地方公共団体	担当した現場を、市民の方が利用しているのを見たとき。	家族
38歳	男性	2人	地方公共団体	作った施設が、人の役にたっていること	学生
36歳	男性	0人	建設業	やりがいを感じない	
36歳	男性	0人	鉄道・高速道路・空港	問題に直面しそれを解決できたとき、構造物が完成していく過程を実感したとき、完成した構造物が供用されている状況を見たとき	家族、友人
36歳	男性	3人	鉄道・高速道路・空港	自分の携わった計画が社外にオープンとなる時、構造物が供用開始される時	家族、友人（どのような業務に普段携わっているかを分かりやすく説明できるため）

30代の声「やりがい編」

年齢	性別	子どもの人数	業種	ドボクという仕事に携わる中で達成感ややりがいを感じる部分はどのような部分ですか？	上記のやりがいを伝えたい、共有したい相手はどなたですか？その理由とともに教えてください。 (例：家族、友人、同僚、学生など)
38歳	男性	0人	地方公共団体	物が出来上がったところを見たとき	友人や同僚
37歳	男性	0人	地方公共団体	地元住民からの感謝の言葉	同僚
39歳	男性	3人	地方公共団体	災害復旧、工事完成	子供達(身内問わず)
35歳	男性	3人	建設業	改めて聞かれると、最近あまり感じていないですね。	感じて、自分の中だけに収めておくと思います。
30歳	女性	0人	地方公共団体	自分の携わった仕事が、形になって地元に残ることは大きなやりがいである。	家族
33歳	男性	1人	官庁・独立行政法人	大きなプロジェクトに関わったとき 上司やカウンターパートから信頼を勝ち取ったと感じたとき	家族
34歳	男性	0人	地方公共団体	工事の設計・発注および現場監督業務を担当していますが、自分の設計が形になり、以前より良くなったことが実感できた時にやりがいを感じます。	普段仕事の話をしてないので家族です。
37歳	男性	0人	地方公共団体	携わったものが形としてのこる。	
39歳	男性	3人	地方公共団体	最終的に市民の方からありがとうという感謝のお言葉をいただいたときに達成感ややりがいを感じる	家族と同僚